

Japan Softball Association Memorial Magazine

ソフトボールの未来と 70年の軌跡



CONTENTS

ソフトボールの輝ける未来をめざして／会長 徳田 寛	2
2030年 ありたい姿プロジェクト	4
各地区会長が語る「ソフトボール未来像」	8
躍進する日本ソフトボールの現在	
・日本ソフトボール協会の組織・取り組み	14
・国内競技の実施状況	16
・競技普及 - 国内外の取り組み -	18
・選手強化 - 常に世界の TOP をめざして -	20
・世界選手権 - 「世界」を相手に挑み続けた歴史 -	22
・オリンピック - 金メダルそして、二度目の除外 -	24
日本ソフトボール協会の歩み	
・協会の歴史（年表）	26
・日本協会表彰者一覧	30
・国際殿堂入り一覧	34
先人の言葉に見る「あるべき姿」と「めざすべき場所」	36



70周年記念ロゴは、「7」がバットから放たれた打球を、「0」はウィンドミルの腕の回旋をイメージし、三宅豊副会長による書をモチーフに作成されました。

ソフトボールの 輝ける未来をめざして



AIMING FOR THE BRIGHT FUTURE OF SOFTBALL



お蔭様で日本ソフトボール協会は、昭和24年3月31日の設立より、創立70周年を迎えることができました。創立以来順調に発展することが出来たのは、ひとえにソフトボールを心から愛する皆様の熱き情熱と、献身的なご支援によるものと、厚く御礼申し上げます。

皆様のご尽力により、競技力は男女ともに世界トップレベルにあり、世界に誇れる状況であると確信しています。改めて選手やコーチ陣の頑張りに敬意を表します。

昨年は20年ぶりに日本で世界女子選手権大会を開催できましたし、日米対抗ソフトボールやジャパンカップなど、世界トップレベルの国際試合も毎年の恒例になってきました。

そしていよいよ来年2020年は東京オリンピックが開催となります。選手、コーチ陣だけでなく、JSA関係者全員で「オールジャパン」として、一丸となり金メダルを目指して頑張っていきたいと考えています。

一方で日本のソフトボールは、少子高齢化や他競技の頑張りにより、以前の様な順風満帆な状態ではありません。国内では幼児期からソフトボールに勤しむ風土醸成から始まり、学生時代から壮年までソフトボールを楽しんでもらえる風土作り、またJSAの事業としてJSA自身で事業を回していける仕組みの構築、更には世界の仲間と競り合ってお互いを高め合う仕組み等、課題が山積です。この冊子ではこの先も世界で輝ける様「2030年ありたい姿」も提示させていただきます。これから先の輝ける将来を目指して、皆様と一緒に成長していきたいと切に願っておりますので、今後ともご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

公益財団法人 日本ソフトボール協会

会長 徳田 寛

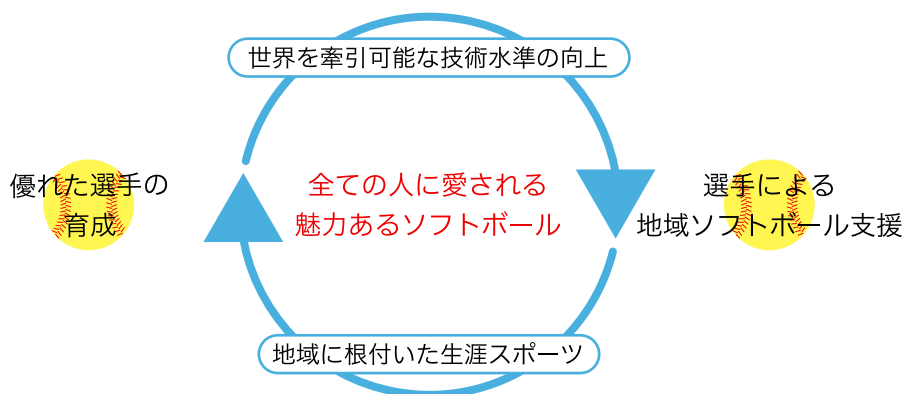
ソフトボールの「未来」は明るいものである…と私たちは信じておりません。ゴールデンタイムに生中継されていたプロ野球のテレビ放映は姿を消しつつあり、「キャッチボールができない」のは、子どもたちだけでなく、その親の世代にまで広がっています。空き地や学校のグラウンドで草野球や草ソフトに興じる風景は、もはやどこにもなく、「絶滅危惧種」といっても過言ではない状況に追い込まれています。かつて全国にソフトボールの「種」をまき、各地にソフトボールを芽吹かせ、根付かせる役割を担ってくれた学校の先生方は多忙を極め、学校部活動は「役割を終えた」のでは…という論議にまで発展しています。その一方で欧米型の総合型地域スポーツクラブが各地で機能・定着しているとは言い難く、この切迫した状況に危機感を感じた本協会は、2012年6月、徳田寛会長の就任と同時に、「ソフトボール活性化プロジェクト」をスタートさせ、約1年間をかけ、「2020年のソフトボールの姿」を思い描くところから、その取り組みを始めました。

10年後の「ありたい姿」を思い描く 2030年 ありたい姿プロジェクト

● 2012 ソフトボール活性化プロジェクトから2030年ありたい姿プロジェクトへ

〈2012 ソフトボール活性化プロジェクト 基本理念〉

ソフトボールを、より魅力のある愛されるスポーツに育てます。
地域に根付き、社会に貢献する生涯スポーツとして普及させます。
世界の牽引を可能とする、日本の競技力・組織力を向上させます。



ソフトボールを身近でメジャーなスポーツにします！

基本理念の継承 ↓ 新たな課題の克服

2030年 ありたい姿プロジェクト

新たな競技人口の獲得	生涯を通して楽しめるスポーツ	競技として世界の頂点をめざす
ASOBALLプロジェクト	地域クラブの設立・整備	世界に通用する人材の育成
学校体育ソフトボール	クラブ間の連携強化	国内外への競技普及
学校部活動の存続・活性化	協会組織によるサポート	TOPリーグの活性化

サッカーの「Jリーグ百年構想」のように、世紀をまたぐような壮大なビジョンを掲げ、取り組んでいる競技団体もありますが、私たちはもう少し身近で、「今、現在」の私たちが「次なる世代」に責任を持ってバトンを手渡すことのできる「10年」を一つの区切りとして目標を設定しました。「10年後のソフトボールがどうなっていたらいいか」をより具体的に思い描き、「10年」、また次の「10年」と、その「現状」を分析した上で到達可能な目標を設定し、優先順位をつけながら、「できること」からはじめ、それを一つずつ積み重ねていくことで、ソフトボールの「未来」を創りたいと考えました。現在の「2030年ありたい姿プロジェクト」は、2012年にスタートした「ソフトボール活性化プロジェクト」を継承する「第2期活性化プロジェクト」にあたるもので、「第1期」で推し進めてきた「ソフトボールの活性化」について、「できたこと」「まだできていないこと」を評価・分析した上で、さらに一歩進め、10年後の「2030年」にソフトボールが「どうあるべきか」を模索しています。



第2期スポーツ基本計画（スポーツ庁）

文部科学省では、スポーツ基本法の規定に基づき、平成29年3月、第2期「スポーツ基本計画」を策定しました。「スポーツ基本計画」は、スポーツ基本法の規定に基づき、スポーツに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための重要な指針として位置付けられるものです。

(1) スポーツで「人生」が変わる!

スポーツを「する」ことで、スポーツの価値が最大限享受できる。

スポーツを「する」「みる」「ささえる」ことでみんながその価値を享受できる。

スポーツを生活の一部とすることで、人生を楽しく健康で生き生きとしたものにできる。

(2) スポーツで「社会」を変える!

スポーツの価値を共有し人々の意識や行動が変わることで、社会の発展に寄与できる。

スポーツは共生社会や健康長寿社会の実現、経済・地域の活性化に貢献できる。

(3) スポーツで「世界」とつながる!

スポーツは「多様性を尊重する世界」「接続可能で逆境に強い世界」「クリーンでフェアな世界」の実現に貢献できる。

(4) スポーツで「未来」を創る!

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を好機として、スポーツで人々がつながる国民運動を展開し、オリンピックムーブメントやパラリンピックムーブメントを推進。

本計画期間においては、「スポーツ参画人口」を拡大し、スポーツ界が他分野との連携・協働を進め、「一億総スポーツ社会」を実現する。

ソフトボール界の主な課題と2030年にありたい姿

「する」「みる」「ささえる」

「2030年ありたい姿プロジェクト」では、「10年後」のソフトボールの姿を思い描くにあたり、スポーツ庁が推し進めている「第2期スポーツ基本計画」を参考に、そこで掲げられている「する」「みる」「ささえる」をキーワードに、ソフトボール界が直面している課題を分類・分析を試みました。10年後、その「ありたい姿」となるために、「する」「みる」「ささえる」という観点から、改めてソフトボール界が直面する課題を洗い出し、それらを克服すべく、それぞれの分野での取り組みをスタートさせています。

主な課題

※カラーの課題は重点課題

「する」

- いかに若年層や学生の競技環境を整備するか
- いかに競技人口を増やすか
- いかに若手有望選手を発掘するか
- いかに世界的に注目される国際大会を継続するか

「みる」

- いかに面白い興行にするか
- いかに一般の集客を増やすか
- いかに男子競技の魅力を伝えるか
- いかにメディアに取り上げられるか
- いかに2020年の盛り上がりを継続するか

「ささえる」

- いかに競技運営の質を高めるか
- いかに組織運営の質を高めるか
- いかに優秀な指導者を確保するか

重点課題に対する2030年にありたい姿

「する」

- いかに若年層や学生の競技環境を整備するか
 - ▶ トップチームが地元のジュニア育成プログラムを作る
 - ▶ 地域に必ずクラブチームがあり、部活動と共存している
- いかに競技人口を増やすか
 - ▶ 競技人口の減少が止まっている
 - ▶ 協会登録者数が正確に把握できている

「みる」

- いかに面白い興行にするか
 - ▶ トップリーグが観て面白い興行を行っている
- いかに一般の集客を増やすか
 - ▶ 各地域でトップチームの固定ファンが作れている

「ささえる」

- いかに競技運営の質を高めるか
 - ▶ トップリーグの審判・記録に十分な手当が支払われている
 - ▶ トップリーグの運営側で競技引退者が活躍している
 - ▶ 競技運営にプロが参画している
 - ▶ 運営側で若手が活躍している
 - ▶ セクハラ、パワハラのない指導が行われている
- いかに組織運営の質を高めるか
 - ▶ 運営組織にプロが参画している（メディア関連、経営者、人事責任者など）
 - ▶ トップリーグがビジネス化している

「ソフトボール活性化プロジェクト」では2020 東京オリンピックでの五輪競技復帰が実現し、女子の日本代表が「オリンピック競技除外後」の2012 年、2014 年の世界選手権を「連覇」し、「ソフトボールの存在感」を示し、オリンピック競技から外されても、なお「世界の頂点」に立つことのできる高い国際競技力を有していることを証明しました。また、男子も2016 年の第11 回世界男子ジュニア(U19/19 歳以下) 選手権大会で優勝する等、「次なる世代」が芽吹き、今年6 月の世界選手権では久々の「メダル獲得」が期待されるまでになっています。国内では、代表選手のほとんどがプレーする「日本女子リーグ」で、インターネットを活用した全試合のLIVE 配信、プロ野球のフランチャイズスタジアムでの開幕飾・決勝トーナメントの実施で1 万人を超える集客を実現。男子の主要大会でもLIVE 配信を行う等、ソフトボールの「活性化」に取り組んできました。

日本ソフトボール協会としては、それらを継承した上で、まずは「2020 東京オリンピック」での「金メダル獲得」を是が非でも成し遂げ、オリンピックという世界的な「スポーツの祭典」を舞台に、ソフトボールという競技の魅力、面白さを改めて世界中に発信し、2028 年ロサンゼルスオリンピックでの「復活」につなげることをめざしています。ジュニア世代の強化が実りつつある男子の世界選手権での「復権」「メダル獲得」。女子リーグの「仕事帰りの観戦」を実現するナイト開催、フランチャイズ化の推進、男子リーグの東西リーグ統一による活性化にも取り組み、ソフトボールを愛好する「仲間」を世界中に増やすための海外普及プロジェクト、少子高齢化の中において「新たな競技人口」の獲得をめざす未就学児を対象としたASOBALL プロジェクト、日本固有の「文化」であり、「伝統」でもある「部活動」と「総合型地域スポーツクラブ」(地域におけるクラブチーム) の設立・連携・協力等、創立70 周年を一つの契機として、協会挙げて諸問題に取り組んでいきたいと考えております。

ソフトボールが向かう「未来」は必ずしも前途洋々、明るい未来が待っているわけではないかもしれません。ただ、向かうべき道が厳しいから、険しいからといって、そこから目を逸らしていても何も変わりません。厳しく険しいからこそ、ソフトボールを愛し、そこに携わる一人ひとりが力を合わせ、「前へ」進んでいかなければならないのです。ソフトボールの「未来」は誰かが創ってくれるわけでも、どこから運んできてくれるわけでも、ないのです。ソフトボールの「未来」は私たち自身に託されています。だからこそ... 今、「10 年後」のソフトボールのあるべき姿を一人ひとりが心の中で思い描いてみようではありませんか。そして、昨日より今日、今日より明日と、何か一つでも変えていくことができたなら、ソフトボールの「未来」も変えることができるはずです。



- 未就学児への動きかけ・学校体育授業での展開・新たな競技人口の獲得
- 海外普及の努力・世界中に仲間を増やす
- 一般集客の努力・ソフトボールのイメージアップ
- ゲーム・LINEスタンプの展開・ソフトボールに興味のない層へのアピール



各地区会長が語る

ソフトボール
未来像

北海道におけるソフトボールの現状と今後に向けた4つの取り組み

北海道ソフトボール協会 会長 木本由孝



①「鮭」

～鮭は川で生まれ、数年後、生まれた川に産卵のために戻ってきます。ASOBALLプロジェクト、小学校の先生方への研修、学習指導要領への定着など低年齢層への働きかけが最重要課題と捉えています。時が経過し、またやってみようかな、以前に経験したことがある、結構楽しいよね、など「一度経験したこと」が大切になります。

②「仲間づくり」

～ソフトボールを「する(プレイ)」ことは、だれもが楽しく行うことができます。北海道協会では細かなルールや登録の有無に縛られず「愛好者大会」を開催し多くの仲間作りに励んでいます。

③「他団体との連携・協力」

～北海道ソフトボール協会は、「北海道野球協議会」に所属し、北海道日本ハムファイターズを含む多くの野球団体と協力し、ベースボール型スポーツの発展に努力しています。

④「民間からの協力」

～北海道ソフトボール協会には多くの「副会長」が在籍しています。その多くはソフトボール経験のない方々で、民間企業の方々です。外部のからの意見、感じ方を教示してもらいながら事業を展開しています。

「ソフトボールのこれから」

東北ソフトボール協会 会長 長澤初男



東京オリンピック開催まで500日を切り、開催が待ち遠しい日々を過ごされていると思います。しかし、次のパリ大会で野球・ソフトボールが除外されてしまいました。本当に残念な決定ですが、次の次、ロサンゼルス大会で必ず復帰することを信じ、是が非でも東京大会で金メダル獲得を果たしてください。期待しています。ソフトボールの今後を考えると、今回のオリンピック競技除外の影響も含め、目標を見失いかけている子どもたちが、ソフトボールをやらなくなってしまうのではないかと、ということが一番の心配です。その意味でも今、日本協会が取り組みをスタートさせている幼児期からの「ASOBALL」プロジェクトは時期を得た取り組みであると高く評価しておりますし、その成果に期待を寄せています。学校体育授業での展開をめざす「学校体育ソフトボール」とともに、ソフトボールのさらなる普及・発展と新たな競技人口の獲得へ向けた大きな力ととなってくれば...と願うばかりです。

また、この機会に、Jリーグ初代チェアマンを経て、他の数多くの競技のリーグ改革に尽力し、現在、日本トップリーグ連携機構で会長を務める川淵三郎氏のエピソードを紹介したいと思います。1980年代末、サッカープロリーグの結成の機運が高まっていたとき、検討委員会では「景気が悪くなってきた。今は時期が悪い」「前例がないことをやって、失敗したらどうするんだ」と否定的な意見が相次いだそうです。議論が行き詰まり、その構想が脆くも崩れそうになったとき、川淵氏が放った一言が空気を一変させたといいます。「そもそも『時期尚早』とか言う人間はやる気がないということ。でも、私には『やる気はありません』とは情けなくて言えな

いから『時期尚早』という言葉でごまかそうとする。『前例がない』と言う人間はそのアイデアがないだけのことで、『私にはアイデアがありません』とは恥ずかしくて言えないから、そう言って逃げようとする」。この一言で反対派は沈黙。「流れ」は再びプロ化を目指す方向に変わったといえます。この素晴らしいリーダーとしての心得を、日本ソフトボール協会も今後「改革」の取り組みの中で活かしていってくれることを期待します。

最後に、私もソフトボール男子のオリンピック競技入りを強く願っている一人です。なぜ男女ではないのか!「野球」男女、「ソフト」男女揃ってオリンピック競技入りを実現出来たら素晴らしいと思います。この野球・ソフトの1競技4種別でのオリンピック競技入りをはじめ、「叶う夢」を追い続けたいと思っています。ガンバレソフトボール! ガンバレ日本!!

未来への種まき… ソフトボールの未来を信じて

関東ソフトボール協会 会長 佐藤国生



明るい未来をつくるにはコツがあります。「未来は必ず明るくなる」と信じることです。

未来を明るく考えるから、行動ができるのです。日本ソフトボール協会が事業展開している「ASOBALL プロジェクト」も、まさに明るい未来を信じて行動しているのだと思います。関東ソフトボール協会も「ソフトボールの未来」を信じています。普及事業として主催している「関東親子ミニソフトボール親善大会」を常務理事全員で視察し、「普及の大切さ」を肌で感じ、関東地区で12月に行われる「東日本ソフトボールサミット」では、その肌で感じた「ソフトボール普及の大切さ」の共通認識を深め、それぞれの地区、それぞれの支部で発信するよう努めています。ソフトボールの未来への「種まき」は確実に進んでいるのです。

この夏、日本協会の事務局は新宿に移転します。まず、その事務所の部屋に2030「ソフトボールありたい姿」の具体的な目標を紙に書いて一番目立つところに貼りましょう。そして... それを目にする度に「ソフトボールの未来は必ず明るくなる」と信じるのです。「信は力なり」という言葉もあります。まずは皆で「ソフトボールの未来」を信じることから始めようではありませんか。



真の「スポーツ」としてのあるべき姿を取り戻し、 「新しい形」のソフトボールを創造しよう！

北信越ソフトボール協会 会長 関川正義



少子化と競技種目の多様化で、ソフトボール競技を支える底辺人口が減少しています。こうしたことは、組織の弱体化並びに競技力の低下につながると考えられません。

我が国では、スポーツが「学校体育」の延長線上にあったこともあり、本来、「楽しい」はずのスポーツに「勝利至上主義」がはびこり、「勝ち負けにこだわる競技」となってしまった感があります。

学生時代、ソフトボールを経験しながら、卒業と同時にやめてしまう者も少なくなく、これらも勝敗にこだわり、勝つことのみを求めた結果の「燃え尽き症候群」といえなくもないのではないのでしょうか。

今日、「働き方改革」や忙し過ぎる教職員の勤務時間管理等、学校部活指導を教職員が顧問として指導するのではなく、専門知識を有する「外部指導者」に任せたり、学校部活動で行ってきたようなことを「地域のクラブ」で代替していくような一連の流れをむしろ「好機」と捉え、日本ソフトボール協会の一貫した指導理論と指導方針の下、ソフトボール関係者が外部指導者として、積極的に、活躍の場を求めていくような形ができれば、今までとはまた違った「ソフトボールの未来」が拓けてくるのではないのでしょうか。

ソフトボールが真の意味での「スポーツ」としての姿を取り戻し、子どもから高齢者まで誰もが楽しめる「レクリエーション」としても存在意義・存在価値を発揮できるのであれば、ソフトボールの「新しい形」(本来の形といえるかもしれないが...)が見えてくるように思いますし、それがソフトボールを通じた社会貢献・地域活性化にもつながるのでは...と考えています。

「ソフトボールのこれから」

東海ソフトボール協会 会長 岩井豊太郎



日本ソフトボール協会が創立70周年を迎えられましたことは誠に喜ばしく、東海ソフトボール協会として心よりお祝い申し上げますとともに、これを契機にソフトボール競技の更なる普及発展を祈念いたします。

さて、来年の東京オリンピック開催に向け、人々のスポーツに対する興味関心が高まりつつある反面、「古い体質」の残る各種競技団体独特の「理不尽な習慣」や鉄拳制裁も辞さない「旧時代的な指導方法」等がハラスメントや体罰などの不祥事としていくつかの競技で発生し、世間の批判を浴びていることも事実であります。

私たちソフトボール競技は決してそんなことのないよう、民主的で風通し良く誰もが平等に楽しく参加できる組織でなければなりません。そのためには、協会のガバナンス強化やコンプライアンスの徹底を図りながら、積極的に普及活動を展開し、多くの子どもたちが笑顔で楽しくプレーし、夢に向かって一生懸命頑張れるようなソフトボール界をめざしたいものです。

「ソフトボールのこれから」

近畿ソフトボール協会 会長 中山泰秀



『ソフト』には優しい・柔らかな、との意味合いがあり、ひとつのボールを通して、チームや人を、そして社会全体を和ませる素晴らしい競技である想いが込められています。

競技選手は達成感や高揚感、一般の方は健康や楽しみを享受できる素晴らしい競技です。

2020年東京五輪を契機として、これからのソフトボールを思う時にこれまでを踏襲することなく、事業経営≒マネジメントを展開していかなければなりません。

①都道府県支部協会は何らかの法人格を取得し、権能を拡大し、財政力を高めること。

②地域や行政機関との連携を強め、ソフトボール専用球場を確保すること。

③競技から育成普及までを網羅した組織を構築し、事業運営をすること。

トップチームから幼少性別年齢国籍障がいの有無に関わらず誰でもいつでも楽しくソフトボールができる環境を整備し、超少子高齢化時代に備える必要性に迫られています。

日本ソフトボール協会創立70周年記念に寄せて

中国ソフトボール協会 会長 土江和良



先ずもって「日本ソフトボール協会創立70周年」おめでとうございます。

この70周年の節目の年に、ソフトボールの「ありがたい姿」を思い描くとき、次の2点がポイントになると考えています。

第1に革ボールとゴムボールについては、以前から色々と議論が交わされてきた経緯があります。今現在、日本人の体格は著しく向上し、スポーツ人口も増える中、国策をもって環境整備も進み、各競技団体も「世界で戦えるアスリート」の強化育成に本腰を入れて取り組んでいます。今までに経験したことのない超高齢化時代を目前して、我がソフトボール界も長期的視野に立って真剣に議論すべきであると考えています。そこで、現在はゴムボールを使用している高校生の大会を男女とも革ボール使用に切り替えることによって、より高い技術が求められ、同時によりスピード感あふれる迫力と魅力ある試合展開が期待できるのではないかとというのが、私が考える第1のポイントです。思い切った改革によってこそ進歩発展があると思いますし、世界の舞台で今後も活躍していくことを望むのであれば、これは重要な要素となるはずで。

第2に各県支部は年間数多い大会を消化しつつ、地域発展に貢献できるよう奮闘していますが、これにも限界があり、前述のとおり社会情勢が激変していく中においては、学校の体育授業の中でソフトボールを展開できるよう、直接現場で取り組んでいる各県支部、あるいは学校保健体育の先生方の意見や疑問を総合的に判断し、5～10年の目標を定め、青少年(中・小・幼)の育成体制の強化を図るべきであると考えます。その意味では、現在、日本協会がスタートさせた未就学児を対象とした「ASOBALL」プロジェクトや、かねてより取り組みを続けている「学校体育ソフトボール」にもっともっと力を傾注していく必要があると感じますし、そのプロジェクトを中核とし、若年層へ向けた競技普及の取り組みや新たな競技人口の獲得へ向けた努力が必要なのではないかと感じています。

四国4県が手を取り合い

ソフトボールの「未来」に期待が持てるような取り組みを！

四国ソフトボール協会 会長 中内桂郎



このたび、公益財団法人日本ソフトボール協会が70周年を迎えられ、心よりお祝い申し上げます。

さて、現在のソフトボール人口は、少子高齢化や企業スポーツの衰退などによる影響を受ける等、減少傾向にあり、スポーツを取り巻く環境の「実態」は厳しいものがあります。

併せて、子どもの学力・体力の低下が指摘され、社会問題となっていますが、これらに対しても、子どもたちが「ソフトボール」というスポーツを通じて、元気で健全に育つよう願っております。

「スポーツ」が国民に対して果たす役割は非常に大きなものがあり、数あるスポーツの中において、国際競技力が高く「世界一」を狙える「競技スポーツ」であり、その一方で子どもから高齢者まで生涯を通じて楽しめる「生涯スポーツ」としての側面も持つ「ソフトボール」に対する期待は当然大きなものがあり、社会的存在意義も高いものがあると感じています。

今、私たちは競技力向上及び生涯スポーツの振興を図るために指導者の育成や地域での普及活動に努め、四国4県が手を取り合うことにより、「未来に期待が持てる」取り組みをスタートさせています。

最後に、長期にわたりスポーツ界に貢献されてきた公益財団法人日本ソフトボール協会の功績を讃えるとともに、今後益々の発展とご活躍をご祈念し、微力ながら当協会としてもお力添えできるよう、その活動に賛同する所存でございますので、何卒ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

ソフトボールの「人を育て社会を育む力」を信じて

九州ソフトボール協会 会長 森 優



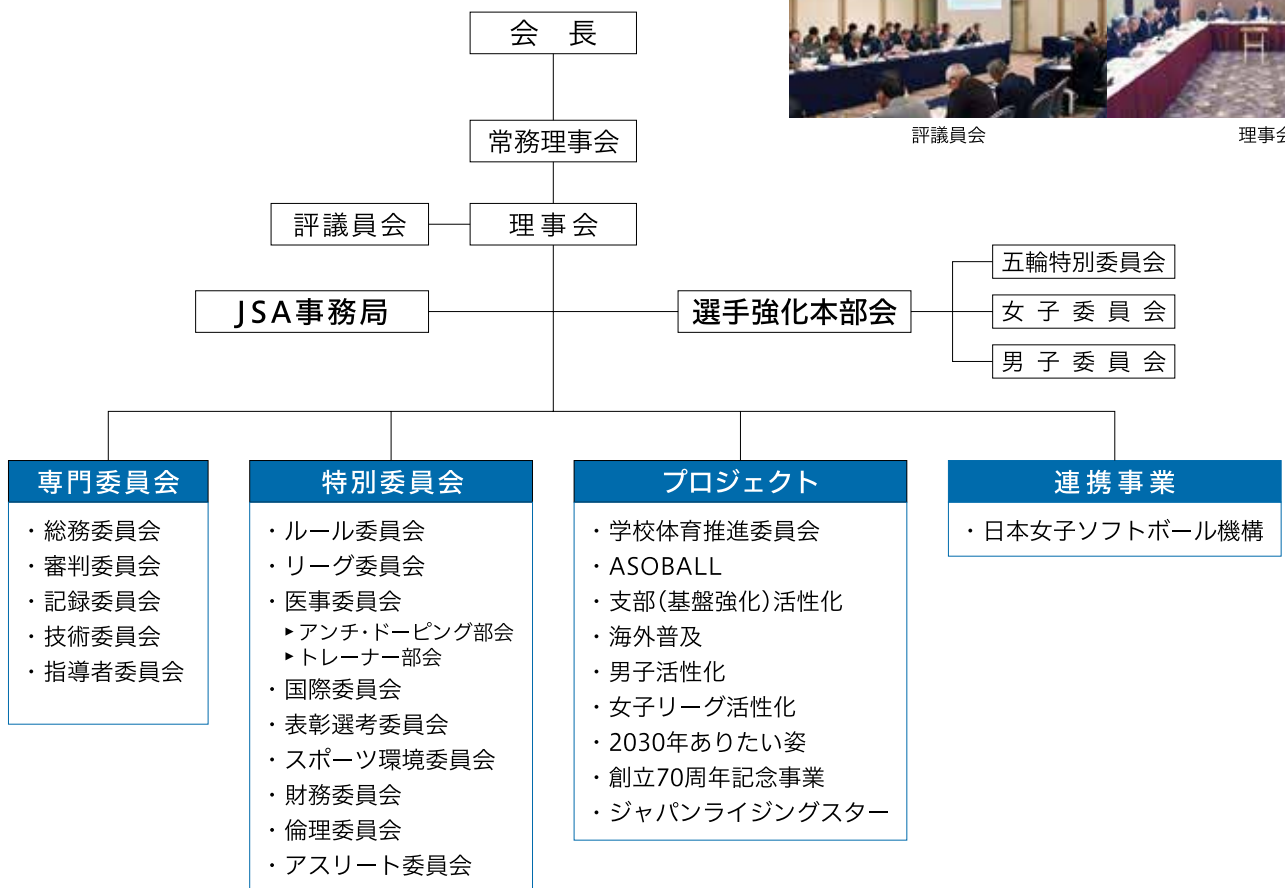
日本ソフトボール協会創立70周年おめでとうございます。

九州8県は「九州は一つ」を合言葉にソフトボール競技の振興発展を目標に活動を続けています。高校卒業後、大学や実業団に入り、日本代表などの第一線で活躍し、「いずれ故郷で教員に」という志を持った選手が多くいます。21世紀を担う若者が、心身ともに大きく成長する時期にソフトボールを通して心や身体を鍛えることは、将来に向けて明るくたくましく生きていくための大きな原動力になるものと思っています。仲間と共に同じ目標に向かって努力したり、喜びや苦しみを分かち合ったりすることは何物にも代え難いすばらしい経験であり、今後の人生を生き抜いていく上で貴重な財産となるものと思います。

スポーツには、「人を育て社会を育む力」があることを私たちは信じています。

日本ソフトボール協会の 組織・取り組み

● 公益財団法人 日本ソフトボール協会 組織図



評議員会

理事会

評議員会構成
都道府県ソフトボール協会：47
全日本大学ソフトボール連盟：1
(公財) 全国高等学校体育連盟ソフトボール専門部：1
(公財) 日本中学校体育連盟ソフトボール部：1

加盟団体
(公財) 日本スポーツ協会 (JSPO)
(公財) 日本オリンピック委員会 (JOC)
世界野球ソフトボール連盟 (WBSC)
ソフトボール アジア
(公財) 日本アンチ・ドーピング機構 (JADA)



選手強化本部会



専門委員会

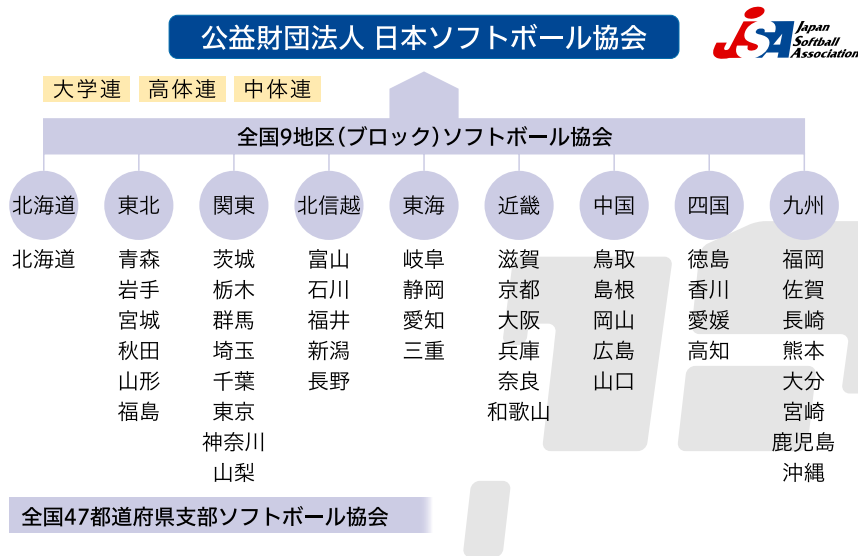


プロジェクト

女子リーグ活性化

「ソフトボール」を世界中に広めたい。
 ソフトボールを愛する「仲間」を世界中に増やしたい。
 それが私たちJSAの願いであり、使命です。
 その願いと使命を実現するために私たちは「組織変革」に取り組んでいます。
 適材適所で人材を配置し、真にソフトボールの発展を願い、力を尽くす。
 そのために数々の新規プロジェクトを立ち上げ
積極的な海外支援/ 人材派遣/ 国際大会の招致/ 大会のありかたの見直し
/ 新たな枠組みでの選手強化/ 競技普及
 等に取り組んでいます。

● 日本ソフトボール協会 加盟団体組織



● オリンピック追加種目認定への組織としての取り組み



ISF 国際ソフトボール連盟は、オリンピック競技復帰を目指し、野球と連携・協力し「WBSC世界野球ソフトボール連盟」を設立。懸命のオリンピック復帰活動を展開。2020 東京オリンピックで追加種目に!



国内競技の実施状況

レベルに応じた環境づくり

競技種別は頂点を高く

WOMEN'S / 女子

競技種別



実業団女子



クラブ女子



総合女子



日本女子リーグ

学生種別



小学生女子



中学生女子



高校女子



大学女子

生涯種別



エルDEST



エルダ- (マスターズ)



レディース

生涯種別は

ソフトボールは子どもから高齢者まで、誰もが楽しめるスポーツです。

「競技」としてソフトボールを行い、「日本」「世界」をめざすアスリートと、生涯を通じてソフトボールを楽しむ人たちが同居しているスポーツ、それがソフトボールなのです。

競技としてソフトボールを行う人も、趣味・楽しみとしてプレーする人も、あるいはそれを観戦して楽しむ人も、応援に駆けつけた人も、それぞれのレベルで、いろんなスタイルで、日常的にソフトボールを楽しむことができる環境を創り、整えること、それが私たちの願いであり、使命であると考えています。

MEN'S / 男子



日本男子リーグ



総合男子



クラブ男子



実業団男子



大学男子



高校男子



中学生男子



小学生男子



一般男子



教員



壮年



実年



シニア



ハイシニア

競技種別

学生種別

生涯種別

裾野を広く

競技普及 国内外における取り組み

国内における競技普及の取り組み



女子 TOP 日本代表による強化合宿地・国際試合会場での交流



男子・女子日本リーグ選手によるソフトボール教室



小・中学校の体育授業での「学校体育ソフトボール」

幼児向け「ASOBALL」プロジェクト



VR(バーチャルリアリティ)を活用した審判技術向上対策

国際舞台で活躍できる審判員・記録員の育成

ヨーロッパへ、アフリカへ、アジアへ... ソフトボールを世界中に普及させていくために。ソフトボール競技を普及させ、競技力向上を実現すべく「海外普及プロジェクト」が動き出しています。日本国内においても「日本代表」が日本全国で強化合宿を行い、国内での国際大会に参加する際に「開催地での交流」を行っています。また、「日本リーグの選手たち」も全国各地を転戦し、その試合の合間を縫って「ソフトボール教室」を実施する等、競技普及の努力を続けています。プレーヤー・チームだけでなく、大会を支える「審判員」「記録員」も国際舞台で活躍できる人材の発掘・育成に力を注いでいます。

世界へ向けた競技普及の取り組み



日仏パートナーシップ協定



ヨーロッパ・アフリカへの普及・支援を強化



チェコでの男子国際大会参加・世界選手権開催



ガンビアへの支援活動



アジア選手権の合間の縫っての技術指導



インドネシアチームとの交流・強化



チャイニーズ・タイペイとのジュニア世代の交流事業



日韓ジュニアスポーツ交流事業

アジア諸国との交流・普及活動

選手強化の現状

常に世界のTOPをめざして



女子TOP 日本代表



女子GEM3 日本代表



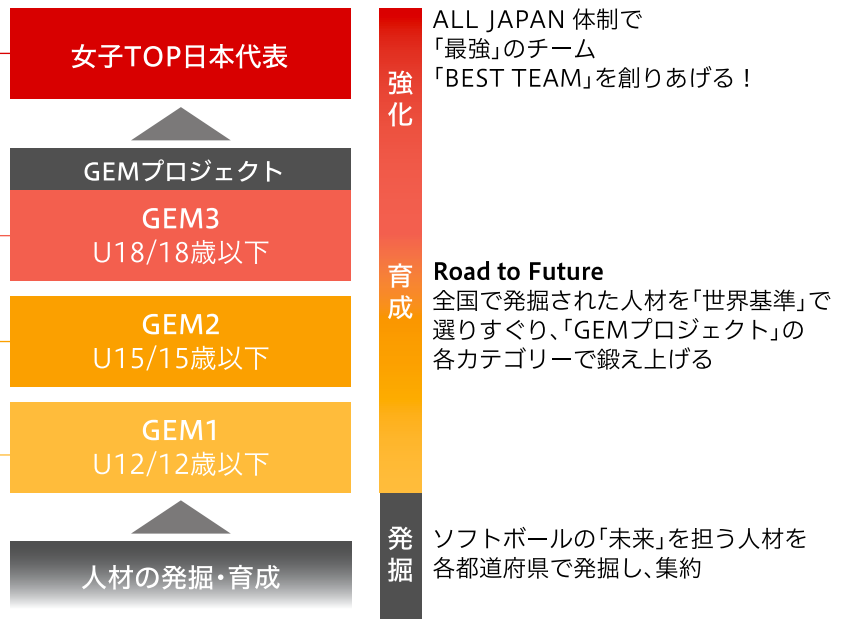
女子GEM2 日本代表



女子GEM1 日本代表

日本のソフトボールが常に「世界のTOP」であるように…。女子はジュニア育成プロジェクト「GEM プロジェクト」を立ち上げ、取り組んでいます。女子TOP 日本代表を文字通りTOP に置き、そこを頂点として、GEM1、GEM2、GEM3 の強化カテゴリーを設け、一貫指導体制で選手強化に励んでいます。

● 女子強化システム



※ GEMとは「宝石」「宝物」といった意味があり、日本のソフトボールの未来を担うジュニア世代の選手たちを「宝石」のように大切に育てたいという思いから、「GEM プロジェクト」と命名されました。

● WBSC カテゴリー区分の変更と選手強化の関連(女子)



一方、1990年代～2000年にかけては、男子ソフトボールも限りなく「世界一」に近づき「世界TOP」を争う位置にいたのです。しかし、このところの世界選手権では、5大会連続の5位「ベスト8の壁」を突破できずにいます。それでも2016年には「弟分」の男子U19日本代表が35年ぶり2度目の「世界一」に輝き、2017年には初めて編成された中学3年生の代表チームが「一つ上」のカテゴリーの「U19」のアジア選手権で優勝を飾る等、「若い力」は確実に育ち、再び「世界のTOP」を狙えるチャンスが到来しています。

「世界への挑戦」始まる
1966 第1回世界男子選手権



限りなく「世界の頂点」に近づいた瞬間

1996 第9回世界男子選手権 3位
2000 第10回世界男子選手権 準優勝



苦闘の時代 / 5大会連続5位

ジュニア世代の強化が実を結び
再び、「世界のTOP」を狙える位置に

〈男子ジュニア〉
2016 第11回世界男子ジュニア選手権 優勝
2017 第6回アジア男子ジュニア選手権 優勝

〈男子TOP〉
2019 TABチャレンジカップ2019 優勝



● WBSF カテゴリー区分の変更と選手強化の関連(男子)



● World Cup 出場枠 / 16チーム→12チーム

北中南米 5→4 アジア 3→2 ヨーロッパ 3→2 オセアニア 2→2 アフリカ 2→1 + ワイルドカード出場枠 1*

*従来の開催国枠(1)が撤廃され、世界ランキング、開催地の地域性、世界的貢献等を勘案し、WBSFが決定

※ 女子のWorld Cup、U18 World Cupの出場チーム数・出場枠は現状のまま、変更ありません。

世界選手権

「世界」を相手に挑み続けた歴史

女子は1965年、男子は1966年、ジュニアカテゴリー（U19/19歳以下）は1981年からスタートした「世界選手権」。文字通り「世界一」の座を決める大会です。

日本は女子TOP日本代表が3回、女子GEM3（U19）日本代表が5回、男子U19日本代表が2回、世界の「頂点」に立っています。

頂点を高く。世界をリードし、新たな競技人口を獲得するためにも「強さ」が求められます。

※「世界選手権」は「World Cup」に改称されます。

● 男子TOP日本代表 ● 男子ジュニア日本代表

MEN'S / 男子



1981

1981 第1回 世界ユース選手権 優勝
※後のジュニア選手権

1996 第9回 世界男子選手権 3位

1996



2000 第10回 世界男子選手権 準優勝

2000



2016

2016 第11回 世界男子ジュニア選手権 優勝
35年ぶりの世界一

若い世代の台頭で
久々のメダル獲得へ期待大！

1970 第2回 世界女子選手権 優勝
初の世界制覇

1970



1981

1981 第1回 世界ユース選手権 優勝
※後のジュニア選手権



1991

1991 第4回 世界女子ジュニア選手権 優勝



1999

1999 第6回 世界女子ジュニア選手権 優勝



2003

2003 第7回 世界女子ジュニア選手権 優勝

2012 第13回 世界女選手権 優勝
42年ぶりの世界一

2012



2013

2013 第10回 世界女子ジュニア選手権 優勝

2014 第14回 世界女選手権 優勝
初の連覇

2014



常に世界のTOPを争う国際的競技力

オリンピック 金メダルそして、二度目の除外

1991年 6月13日 アトランタオリンピック正式種目入り決定

1991年 11月29日 選手強化本部会設立

1995年 2月25日 アジア・オセアニア地区最終予選で1996アトランタオリンピック出場権獲得



Atlanta 1996

1996 アトランタオリンピック 4位



Sydney 2000

2000 シドニーオリンピック 銀メダル



Athens 2004

2004 アテネオリンピック 銅メダル



Beijing 2008

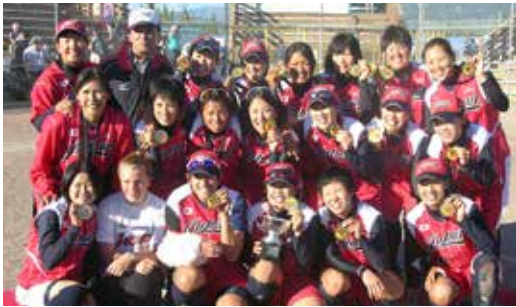
2008 北京オリンピック 金メダル



ソフトボールという競技の魅力、楽しさ、面白さ... それらを世界中に伝え、発信していくために。世界が注目するスポーツの祭典「オリンピック」でソフトボールが実施されることには大きな意義があります。

世界中の人々にソフトボールを知ってもらい、その「仲間」を増やしていくためにソフトボールはオリンピック競技であり続ける必要があります。オリンピック競技から二度も「除外」されるという、あまりにも理不尽で悲しい記憶を持つ私たちだからこそ、きっとまた立ち上がることができるはずです。

2012 ロンドンオリンピック、2016 リオオリンピックで競技除外



2012・2014 意地の「世界選手権連覇」



懸命な五輪復帰活動を展開



2020 東京オリンピックで復活!



2024 パリオリンピック継続実施ならずも、2028 ロサンゼルスオリンピックでの復活をめざす!!

つな
なげ
て

み
んな
の
輝
け
て
い

日本ソフトボール協会の歩み

昭和

20年代

1946(昭和21年)

●日本初の革ボールが熊本で誕生



初代会長
四角誠一氏



初代専務理事
吉田 清氏

1949(昭和24年)3月31日

●日本ソフトボール協会創立

1949(昭和24年)8月

●第1回全日本高等学校女子選手権大会 開催



昭和24年
ルールブック
初版本 発行



第1回全日本高等学校女子選手権大会
優勝 芦屋女子高

1950(昭和25年)10月

●第5回国民体育大会
ソフトボール正式種目入り
(高校女子・一般女子を実施)

1951(昭和26年)10月

●ISF(国際ソフトボール連盟)設立
日本加盟



昭和30年代の全日本大会の試合風景

昭和

30年代

1955(昭和30年)8月

●第1回日本総合大会 開催
●第1回全日本一般男子
選手権大会 開催



昭和32年
会報発行

1957(昭和32年)10月

●第12回国民体育大会
一般男子正式種目入り

1959(昭和34年)

●第1回審判員中央研修会 開催

1961(昭和36年)6月

●第1回全日本実業団女子大会開催

1963(昭和38年)

●専門委員会設置
●国際ルール採用・ルール全面改訂
●初の国際審判員試験(7名合格)

1964(昭和39年)

●第1回全日本実業団男子大会開催
●審判員登録制度はじまる

昭和

40年代

1965(昭和40年)

●チーム登録(個人登録実施)
●第1回世界女子選手権大会 開催



昭和40年 第1回世界女子選手権大会
(オーストラリア・メルボルン)
高島屋大阪が「日本代表」として出場し、第3位

1966(昭和41年)

●第1回世界男子選手権大会 開催



昭和41年 第1回世界男子選手権大会
(メキシコ・メキシコシティ)
日本製鋼所広島製作所が
「日本代表」として出場/第6位
大会出発直前、NHK「私の秘密」に出演

1968(昭和43年)

●日本女子ソフトボールリーグ発足
●日本ソフトボール協会創立20周年記念表彰
●第1回アジア男子選手権大会 開催



昭和43年
第1回アジア男子選手権大会のプログラム

1970(昭和45年)

第2回世界女子選手権大会 優勝



昭和45年 大阪・長居陸上競技場で開催
初の「世界一」に!

1972(昭和47年)

●「財団法人」認可

昭和
50年代

- 1976(昭和51年) ●ジュニアソフトボールルール(小学生用)発行
●第4回世界男子選手権大会 開催



昭和51年 第4回世界男子選手権大会
(ニュージーランド・ウェリントン)
初めて男子の「ナショナルチーム」を編成・出場



日本体育大の「黄金時代」を築いた下奥信也氏が
「唯一」世界選手権で日本代表監督を務めた大会
でもあった

- 1979(昭和54年) ●日本ソフトボール協会創立30周年
記念表彰、祝賀会
●記録委員会発足



初代記録委員長を務めた
石黒寅次氏。
息子、孫と三代にわたり、
日本協会記録委員を務める

- 1981(昭和56年) ●第1回世界ユース選手権大会 優勝
(後の世界ジュニア選手権大会)



昭和56年 第1回世界ユース選手権大会
(カナダ・エドモントン)
男女アベック優勝を飾り、「世界の頂点」に立つ

- 1982(昭和57年) ●「公認審判員必携」作成・発行

昭和
60年代

- 1985(昭和60年) ●第3回アジア男子選手権大会
静岡県で開催



1974(昭和49年)以来開催の途絶えていた
アジア選手権大会を静岡県静岡市草薙球場に招致し、開催

- 審判員インサイドプロテクター採用



- 審判・捕手のスロートガード義務化
●タイブレーク(現・タイブレーカー)ルール採用

- 1987(昭和62年) ●ISF(国際ソフトボール連盟)総会
東京で開催



- 1988(昭和63年) ●走者・捕手のヘルメット着用
義務化

平成

平成 10年代

1990(平成2年)

- 日本ソフトボール協会創立40周年
記念表彰、祝賀会
- 第11回北京アジア競技大会
女子ソフトボール正式種目入り



平成2年 第11回北京アジア競技大会
初めて正式種目となった女子ソフトボール
銀メダルを獲得した

1991(平成3年)

- 1996アトランタオリンピックで
女子ソフトボールの正式種目入り決定
- オリンピックへ向けた強化のため
選手強化大会設立



- 1994広島アジア競技大会女子ソフトボール
正式種目入り

1993(平成5年)

- 第1回指導者中央研修会 開催
- 日本女子ソフトボールリーグ1部
8チーム→12チームへ

1994(平成6年)

- 第8回世界女子選手権大会 開催
1996アトランタオリンピック出場権
獲得ならず...
- 第12回広島アジア競技大会 開催
銀メダル獲得



1995(平成7年)

- アジア・オセアニア最終予選を勝ち抜き
1996アトランタオリンピック出場権獲得



1998(平成10年)

- 第9回世界女子選手権大会
静岡県富士宮市で開催
第3位で2000シドニーオリンピック出場権獲得



1999(平成11年)

- 第日本ソフトボール協会創立50周年
表彰式・祝賀会
- 第6回世界女子ジュニア選手権大会 優勝
上野由岐子投手が
国際舞台デビュー



2000(平成12年)

- 2000シドニーオリンピック
「限りなく金メダルに近い銀メダル」



- 第10回世界男子選手権大会 準優勝



2002(平成14年)

- 第10回世界女子選手権大会 準優勝
2004アテネオリンピック出場権獲得
- 第14回釜山アジア競技大会
初の金メダル獲得



2003(平成15年)

- ドクター委員会内にアンチ・ドーピング部会を設置

2004(平成16年)

- 2004アテネオリンピック 銅メダル獲得

2005(平成17年)

- 2012ロンドンオリンピックの
実施競技から野球・ソフトボール除外決定
- NTS全国ジュニア女子育成中央研修会実施

2006(平成18年)

- 第11回世界女子選手権大会 準優勝
2008北京オリンピック出場権獲得



平成
20年代

- 2008(平成20年) ●2008北京オリンピック
悲願の金メダル獲得



- Back Softball
キャンペーン開始



- 2009(平成21年) ●「Back Softball」
オフィシャルウェブサイト開設

- 宇津木妙子氏 ISFアジア地区 副会長に就任

- 2010(平成22年) ●「学校体育ソフトボール」プロジェクト発足

- 2011(平成23年) ●JSAオフィシャルホームページで
動画配信事業開始

- 2012(平成24年) ●公益財団法人日本ソフトボール協会 発足
●第13回世界女子選手権大会 優勝



- 2013(平成25年) ●ISF(国際ソフトボール連盟)
IBAF(国際野球連盟)が統合
WBSC(世界野球ソフトボール連盟) 設立



- 2014(平成26年) ●第14回世界女子選手権大会 優勝
初の「連覇」達成!



- 第17回仁川アジア競技大会
4大会連続 金メダル獲得

- 2016(平成28年) ●第11回世界男子ジュニア選手権大会 優勝
35年ぶりの「世界一」



平成
30年代

- 2018(平成30年) ●第16回世界女子選手権大会
千葉県下4市で開催 準優勝



- 第18回ジャカルタアジア競技大会
5大会連続の金メダル獲得



- 2019(令和元年) ●日本ソフトボール協会
創立70周年
記念式典



日本ソフトボール協会 表彰者一覧

【1951年(昭和26年)度表彰】

- ・第1回読売新聞社「日本スポーツ賞」
小池艶子(鐘紡西大寺工場主将)(岡山)

【1952年(昭和27年)度表彰】

- ・第2回読売新聞社「日本スポーツ賞」
安田女子高校(広島)

【1953年(昭和28年)度表彰】

- ・第3回読売新聞社「日本スポーツ賞」
高島屋大阪(大阪)
- ・日本ソフトボール協会表彰
安田女子高校(広島)
- 山田 巴子(安田女子高校三塁手)
- 儀利古千代恵(鐘紡高砂工場捕手)
- 阿部シゲエ(須賀高校三塁手)



1952年、1956年、1964年に「日本スポーツ賞」、1953年に日本ソフトボール協会賞を受賞した安田女子高校

【1954年(昭和29年)度表彰】

- ・第4回読売新聞社「日本スポーツ賞」
阿倍野高校(大阪)
- ・日本ソフトボール協会表彰
日紡足利(栃木)



1953年、日本ソフトボール協会賞を受賞した儀利古千代恵選手。

【1955年(昭和30年)度表彰】

- ・第5回読売新聞社「日本スポーツ賞」
東洋レーヨン愛媛(愛媛)
- ・日本ソフトボール協会表彰
大阪府立八尾高校(大阪)

【1956年(昭和31年)度表彰】

- ・第6回読売新聞社「日本スポーツ賞」
安田女子高校(広島)
- ・日本ソフトボール協会表彰
鐘紡西大寺工場(岡山)

【1957年(昭和32年)度表彰】

- ・第7回読売新聞社「日本スポーツ賞」
鏡紡高砂工場(兵庫)

【1958年(昭和33年)度表彰】

- ・第8回読売新聞社「日本スポーツ賞」
須賀高校(栃木)
- ・日本ソフトボール協会表彰
広島市役所(広島)

【1959年(昭和34年)度表彰】

- ・第9回読売新聞社「日本スポーツ賞」
高島屋大阪(大阪)
- ・日本ソフトボール協会表彰
倉紡安城工場(愛知)
- 今治明德高校(愛媛)

【1960年(昭和35年)度表彰】

- ・第10回読売新聞社「日本スポーツ賞」
広島市役所(広島)

【1961年(昭和36年)度表彰】

- ・第11回読売新聞社「日本スポーツ賞」
今治明德高校(愛媛)

【1962年(昭和37年)度表彰】

- ・第12回読売新聞社「日本スポーツ賞」
宇都宮女子商業高校(栃木)

【1963年(昭和38年)度表彰】

- ・第13回読売新聞社「日本スポーツ賞」
前 登美代(高島屋大阪)
- ・日本ソフトボール協会賞
日本代表選手団(日本)
- 日紡垂井工場(岐阜)



1962年、「日本スポーツ賞」を受賞した宇都宮女子商業高校

【1964年(昭和39年)度表彰】

- ・第14回読売新聞社「日本スポーツ賞」
安田女子高校(広島)
- ・日本ソフトボール協会賞
紫クラブ(京都)
- 大谷高校(大阪)

【1965年(昭和40年)度表彰】

- ・第15回読売新聞社「日本スポーツ賞」
日本製鋼広島製作所(広島)
- ・日本ソフトボール協会賞
高島屋大阪(大阪)
- 宇都宮女子商業高校(栃木)
- 上田 早苗(愛媛)



1965年、「日本スポーツ賞」を受賞した日本製鋼広島製作所

【1966年(昭和41年)度表彰】

- ・第16回読売新聞社「日本スポーツ賞」
高島屋大阪(大阪)
- ・日本ソフトボール協会賞
日本製鋼広島製作所(広島)
- 武井 文枝(長野)
- 矢幡 和子(宮崎)
- 湯浅ヤスヨ(宮崎)



1966年、「日本スポーツ賞」を受賞した高島屋大阪

【1967年(昭和42年)度表彰】

- ・第17回読売新聞社「日本スポーツ賞」
京都明德クラブ(京都)
- ・日本ソフトボール協会賞
高島屋大阪(大阪)
- 全学習院大学(東京)



1967年、「日本スポーツ賞」を受賞した京都明德クラブ

【1968年(昭和43年)度表彰】

- ・第18回読売新聞社「日本スポーツ賞」
高島屋大阪(大阪)
- ・日本ソフトボール協会賞
日本体育大学(東京)
- 土佐電鉄(高知)
- 宇都宮女子商業高校(栃木)
- 鳥城クラブ(岡山)
- 松浦 史彦(埼玉)



1968年・1969年、2年連続で日本ソフトボール協会賞を受賞した鳥城クラブ

【1969年(昭和44年)度表彰】

- ・第19回読売新聞社「日本スポーツ賞」
倉紡安城工場(愛知)
- ・日本ソフトボール協会賞
高島屋大阪(大阪)
- 鳥城クラブ(岡山)
- 全日本体育大学(東京)



1970年、大阪で第2回世界女子選手権大会を開催。女性審判員の姿も見られる

【1970年(昭和45年)度表彰】

- ・第20回読売新聞社「日本スポーツ賞」
日本代表チーム
- ・日本ソフトボール協会賞
高島屋大阪(大阪)
- 奥野 寛(福井)

【1971年(昭和46年)度表彰】

- ・第21回読売新聞社「日本スポーツ賞」
宇都宮女子商業高校(栃木)
- ・日本ソフトボール協会賞
高島屋大阪(大阪)



1970年から日本体育大学がインカレ4連覇その原動力となったのは、現在日本協会の副会長であり、強化本部長でもある三宅豊氏

【1972年(昭和47年)度表彰】

- ・第22回読売新聞社「日本スポーツ賞」
日本代表男子チーム
- ・日本ソフトボール協会賞
高島屋大阪(大阪)
- 日本体育大学(東京)
- 佐世保重工(長崎)

【1973年(昭和48年)度表彰】

- ・第23回読売新聞社「日本スポーツ賞」
レッドスパローズ(千葉)
- ・日本ソフトボール協会賞
高島屋大阪(大阪)
- 倉紡安城工場(愛知)
- 日本体育大学男子(東京)



1973年、「日本スポーツ賞」を受賞したレッドスパローズ。翌年のアジア男子選手権にも出場し、準優勝

【1974年(昭和49年)度表彰】

- ・第24回読売新聞社「日本スポーツ賞」
日本代表女子チーム
- ・日本ソフトボール協会特別賞
高島屋大阪(大阪)
- ・日本ソフトボール協会賞
日本体育大学男子(東京)
- 高崎教員(群馬)
- 丸善石油千葉(千葉)
- アジア男子日本代表チーム
- アジア女子日本代表チーム

【1975年(昭和50年)度表彰】

- ・第25回読売新聞社
「日本スポーツ賞」
日本体育大学男子(東京)
- ・日本ソフトボール協会賞
ユニチカ垂井工場(岐阜)
- 東京女子体育大学(東京)



1975年、インカレ3連覇を達成し、日本ソフトボール協会賞を受賞した東京女子体育大学

【1976年(昭和51年)度表彰】

- ・第26回読売新聞社「日本スポーツ賞」
日本代表男子チーム
- ・日本ソフトボール協会賞
群馬教員(群馬)



【1977年(昭和52年)度表彰】

- ・第27回読売新聞社「日本スポーツ賞」
丸善石油松山チーム(愛媛)
- ・日本ソフトボール協会賞
岡 賢(群馬)



1977年、日本ソフトボール協会賞を受賞した岡賢氏。1980年の第5回世界男子選手権大会から3大会連続で男子日本代表の監督を務めた

【1978年(昭和53年)度表彰】

- ・第28回読売新聞社「日本スポーツ賞」
ユニチカ垂井工場(岐阜)
- ・日本ソフトボール協会賞
日本体育大学女子(東京)
群馬教員(群馬)



1979年、日本ソフトボール協会賞を受賞した横尾製作所(前列)。1983年にはすべての国内タイトルを手にする快挙達成

【1979年(昭和54年)度表彰】

- ・第29回読売新聞社「日本スポーツ賞」
日新製鋼呉製鉄所(広島)
- ・日本ソフトボール協会賞
全日本選抜女子チーム
横尾製作所(群馬)

【1980年(昭和55年)度表彰】

- ・第30回読売新聞社「日本スポーツ賞」
第5回世界男子選手権大会日本代表チーム
- ・日本ソフトボール協会賞
ミニワールド日本代表チーム
中国遠征日本代表チーム
横尾製作所(群馬)
- 田中 誠一(愛知)
- 蕪 清信(宮崎)
- 宇津木妙子(岐阜)
- 弓座みどり(群馬)



1980年、日本ソフトボール協会賞を受賞した田中誠一選手(左)。1980年の第5回世界男子選手権で首位打者を獲得

【1981年(昭和56年)度表彰】

- ・第31回読売新聞社「日本スポーツ賞」
第1回世界ユースソフトボール選手権大会日本代表男子チーム
- ・日本ソフトボール協会賞
第1回世界ユースソフトボール選手権大会日本代表女子チーム
横尾製作所(群馬)
- 日本体育大学女子(東京)
- 旭化成延岡(宮崎)
- 日本電装女子(愛知)

【1982年(昭和57年)度表彰】

- ・第32回読売新聞社「日本スポーツ賞」
三宅 豊(群馬)
- ・日本ソフトボール協会賞
横尾製作所(群馬)
- ユニチカ垂井工場(岐阜)
- 日本体育大学男子(東京)
- 群馬教員(群馬)



1978年に「日本スポーツ賞」を受賞し、1975年、1982年に日本ソフトボール協会賞を受賞したユニチカ垂井工場宇津木妙子副会長が現役時代プレーしたチーム

【1983年(昭和58年)度表彰】

- ・第33回読売新聞社「日本スポーツ賞」
横尾製作所(群馬)
- ・日本ソフトボール協会賞
群馬教員(群馬)
- 日本体育大学男子(東京)
- 闘犬センター(高知)



1984年、第6回世界男子選手権大会で大会最高打率を塗り替える(当時)5割8分3厘のハイアペレージを残した家竹隆之選手

【1984年(昭和59年)度表彰】

- ・第34回読売新聞社「日本スポーツ賞」
第6回世界男子選手権大会日本代表チーム
- ・日本ソフトボール協会賞
群馬教員(群馬)
- 東洋繊維三原(広島)
- ISF国際女子カップ日本代表チーム
- 家竹 隆之(闘犬センター)
- 田中 誠一(トヨタ自動車)

【1985年(昭和60年)度表彰】

- ・特別表彰(順不同)
- 齋藤 学(福島)、前田 彰(北海道)、松岡敬之(東京)、土岐 栄(栃木)、三崎 栄三(群馬)、安田 實(広島)、伊東忠雄(岩手)、松田明栄(高知)、住友富一(徳島)、中島徳隆(和歌山)、河野 太(大分)、木庭修一(東京)、向山文人(長野)、下川吉代(和歌山)、御喜 正(東京)、小寺三五七(栃木)
- ・第35回読売新聞社「日本スポーツ賞」
闘犬センター(高知)

・日本ソフトボール協会賞

- 闘犬センター(高知)
- 群馬教員(群馬)
- 太陽誘電(群馬)
- 第2回世界ジュニア選手権大会日本代表男女チーム
- 第6回世界女子選手権大会日本代表チーム
- ISF公認ジャパンカップ女子大会日本代表A・Bチーム
- 第3回アジア男子選手権大会日本代表チーム・韓国遠征チーム
- 日中米3ヶ国対抗選手権大会日本代表チーム
- 第3回ハーレム大会大学選抜チーム
- 第2回ワールドゲームズ大学選抜チーム
- ハワイ大学招待大会日本代表チーム

・日本ソフトボール協会個人表彰

- 家竹 隆之(闘犬センター)
- 組島千登美(日本電装)
- 神宮 好(東京女子体育大学)
- 高橋美奈子(東京女子体育大学)
- 小西真紀子(日本体育大学)
- 佐藤 孝子(東京女子体育大学)
- 後藤智恵子(東京女子体育大学)

【1986年(昭和61年)度表彰】

- ・第36回読売新聞社「日本スポーツ賞」
西村 信紀(高知)
- ・日本ソフトボール協会賞
闘犬センター(高知)
- 日本電装女子(愛知)



闘犬センターの「エース」として一時代を築いた西村信紀投手。男子日本代表の「黄金時代」を支え、世界選手権に5回出場

【1987年(昭和62年)度表彰】

・ソフトボール発祥100周年特別表彰

- 【北海道】前田 彰、地崎昭宇、地崎宇三郎、安部幸博、児玉 実、尾崎正則、田中 巖【青森】祐川 猛、西村栄三、加藤信吉、川越良治、浜田健司、中村 紀夫、神 源蔵【岩手】伊東忠雄、坂本弘康、高橋敬明、佐藤秀夫、村上近幸、佐藤忠治郎、佐藤克夫、及川 浩【宮城】佐藤 要、武藤洋一、佐藤 茂、内田 清、須藤真雄【秋田】川口寛太郎、桜田 醇、近藤博雄、斉藤実則、田中 文夫、伊東清治、渡辺賢一、進藤秀雄【山形】杉本真太郎、柴田成一、多田光男、多田吉男【福島】佐藤寿男、斉藤 学、矢内孫次、渡部仁一、柏倉 正一、志賀 茂、斉藤光正、小竹恒雄、佐藤勝己、根元郁生【茨城】中野 忠、諸沢幸雄、太田尚武、名越二郎、軽部要七郎、市毛昭三、中沢佳人、岸根壽英、小松崎昭雄、砂押吉雄、中川光司、和地伸次【栃木】土岐 栄、小寺三五七、加藤允夫【群馬】三崎 栄三、佐藤重太郎、池谷晃寛、関田博重、岡 幸助【埼玉】内田甚五郎、土屋義彦、田中一弘、石黒 硬、生方博志、高野好夫、深野 章、谷口元弘【千葉】勝又豊次郎、大谷 清、宍倉 博、平田三郎【神奈川】木村邦雄、竹内吉治、山根康照【山梨】久保田守、深澤 貢、山田季佳【富山】吉本靖男、藤森友義、高畑 稔、渡辺清方、加藤謙蔵、藤井馨正、井口信之【石川】源田久男、木多義隆、川端一郎【福井】松田謙則、諏訪公一、広瀬正敏、横山 清、大久保次信、田辺広利【新潟】長谷川増吉、保坂 昭、若林幸友、田中昭平、小柳秀平、渡辺 勇、岡田 秀【長野】向山文人、原 久夫、唐澤寿男、唐沢清海、向山一人、野満和男、向山秋夫、浦野孝之【岐阜】安藤寿彦、平田栄一、塩田昭三、吉田優秀、篠田満雄【静岡】久保田喜平次、杉山 繁、渡辺 功、牧野 翼、鈴木安太郎、鈴木恒夫【愛知】中根三二、鈴木俊雄、岡部末式、艸田 聰、鈴木 孝、木下繁脛、谷田鈴生【三重】前島俊皋、久保源治、舌古征人、久保由治【滋賀】西村哲英、井上 敏、小森道宏、井上加枝【京都】山本太平、福西康雄、和谷武彦【大阪】佐々木砂夫、猿橋 健、森下正己【兵庫】東仲俊明、浦井 徹、小松章彦【和歌山】松岡 弘、下川吉代、吉兼文彦、歌坂 宏、小西 稔【鳥取】和田哲昭、尾坂寛人【島根】永瀬慎橋、立原加吉、石原幸夫【岡山】岸本英男、秋山隆義、小林弘吉、小田仔賢、花岡洋右、戸川忠郎、吉岡英三、森上 亨【広島】安田 實、川中一郎、岸田文武、桑田一人、中田隆三、今津俊朗、井上三春、加藤宗司【山口】中山美信、清水直行、岡村皓三、大広和夫、権代 喬、村實康生、有吉道夫【徳島】住友富一、平岡益夫、吉成専資、岸本寛、松本正文【香川】山上政則、小林 功、中平 順、田中寿一、本内栄章、岡崎武雄、山地信行【愛媛】小川 清、大亀孝裕、笹田嘉雄、大野佑吾、片上一雄【高知】西村皓昭、弘瀬 勝、入交利昭、東村禎夫、笹岡順一、西村寛良【福岡】市川総一郎、峰 公平、甲佐清久、西村幸男、龍 忠男【佐賀】鶴 五夫、古川隆次、嶋松正敏【長崎】石田佳邦、倉田寅男、松下征徳【熊本】石黒寅次、大浦辰男、津田幸雄、片山一也、赤塚新吾【大分】池邊明文、河野 太、和久岩男【宮崎】鮫島哲也、江藤隆美、中邑芳邦、黒木幹夫、串間 博【鹿児島】池田三郎、竹下勝美、山下武甫、横馬場国重

・第37回読売新聞社「日本スポーツ賞」

- 重富 雅(兵庫)
- ・日本ソフトボール協会賞
闘犬センター(高知)
- 太陽誘電(群馬)
- トヨタ自動車男子(愛知)



ソフトボール発祥100周年を記念して制作されたポストカード。昭和の名将がスラリ勢揃い

【1988年(昭和63年)度表彰】

- ・第38回読売新聞社「日本スポーツ賞」
第7回世界男子選手権大会日本代表チーム
- ・日本ソフトボール協会賞
太陽誘電(群馬)

【1989年(平成元年)度表彰】

- ・第39回読売新聞社「日本スポーツ賞」
太陽誘電(群馬)
- ・日本ソフトボール協会賞
日本体育大学男子チーム(東京)
- ・太陽誘電(群馬)
- ・日立高崎(群馬)
- ・名古屋猪子石小学校(愛知)
- ・夙川学院高校(兵庫)



1987年からインターハイ「5連覇」の「偉業」を成し遂げた夙川学院高校

【1990年(平成2年)度表彰】

- ・第40回読売新聞社「日本スポーツ賞」
夙川学院高校(兵庫)
- ・日本ソフトボール協会賞
太陽誘電(群馬)
- ・闘犬センター(高知)
- ・上郷クラブ(長野)
- ・ホンダエンジニアリング(埼玉)
- ・夙川学院高校(兵庫)



1990年に日本ソフトボール協会賞を受賞したホンダエンジニアリング

【1991年(平成3年)度表彰】

- ・第41回読売新聞社「日本スポーツ賞」
第4回世界女子ジュニア選手権大会日本代表チーム
- ・日本ソフトボール協会賞
太陽誘電(群馬)
- ・闘犬センター(高知)
- ・夙川学院高校(兵庫)



1991年から日本リーグ3連覇を果たすなど、一時代を築いた太陽誘電

【1992年(平成4年)度表彰】

- ・第42回読売新聞社「日本スポーツ賞」
太陽誘電(群馬)
- ・日本ソフトボール協会賞
闘犬センター(高知)
- ・太陽誘電(群馬)
- ・金沢教員(石川)

【1993年(平成5年)度表彰】

- ・第43回読売新聞社「日本スポーツ賞」
第4回世界男子ジュニア選手権大会日本代表チーム
- ・日本ソフトボール協会賞
山形県庁(山形)
- ・闘犬センター(高知)
- ・太陽誘電(群馬)
- ・若草レモンズ(兵庫)



1993年、日本ソフトボール協会賞を受賞した若草レモンズ。「ママさん大会」で活躍

【1994年(平成6年)度表彰】

- ・日本ソフトボール協会賞
山形県庁(山形)
- ・日立高崎(群馬)

【1995年(平成7年)度表彰】

- ・第45回読売新聞社「日本スポーツ賞」
アトランタ五輪アジア・オセアニア地区最終予選日本代表チーム
- ・日本ソフトボール協会賞
闘犬センター(高知)

【1996年(平成8年)度表彰】

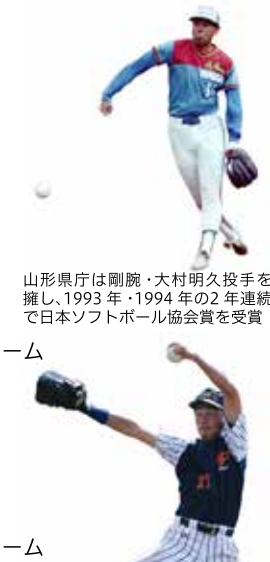
- ・第46回読売新聞社「日本スポーツ賞」
アトランタ五輪出場日本代表チーム
- ・日本ソフトボール協会賞
アトランタ五輪出場日本代表チーム

【1997年(平成9年)度表彰】

- ・第47回読売新聞社「日本スポーツ賞」
日立高崎(群馬)

【1998年(平成10年)度表彰】

- ・第48回読売新聞社「日本スポーツ賞」
第9回世界女子選手権大会日本代表チーム
- ・日本ソフトボール協会賞
USC浦安(千葉)
- ・FUKUJUSO-OGAKI(岐阜)
- ・日新製鋼呉(広島)
- ・厚木商業高校(神奈川)
- ・神奈川県ソフトボール協会
第9回世界女子選手権大会日本代表チーム



山形県庁は剛腕・大村明久投手を擁し、1993年・1994年の2年連続で日本ソフトボール協会賞を受賞

1998年、日本ソフトボール協会賞を受賞したUSC浦安。その中心的存在の左腕・天野亮敏投手

【1999年(平成11年)度表彰】

- ・第49回読売新聞社「日本スポーツ賞」
第6回世界女子ジュニア選手権大会日本代表チーム
- ・日本ソフトボール協会賞
第7回アジア女子選手権大会出場チーム(東京女子体育大学)
- ・JOCスポーツ賞
第6回世界女子ジュニア選手権大会日本代表チーム

【2000年(平成12年)度表彰】

- ・第50回読売新聞社「日本スポーツ賞」
シドニー五輪出場日本代表チーム
- ・日本ソフトボール協会賞
ホンダエンジニアリング(埼玉)
- ・西山高校(京都)
- ・東京女子体育大学(東京)
- ・三洋島根(島根)
- ・コザスポーツレジャーランド(沖縄)
- ・厚木商業高校(神奈川)
- ・清風南海高校(大阪)
- ・デイリースポーツ新聞社「ホワイトベア・スポーツ賞」
シドニー五輪出場日本代表チーム
- ・日本ごはん党「ライススポーツ大賞特別賞」
シドニー五輪出場日本代表チーム



2000年から3年連続で日本ソフトボール協会賞受賞のコザスポーツレジャーランド

【2001年(平成13年)度表彰】

- ・第51回読売新聞社「日本スポーツ賞」
第6回世界男子ジュニア選手権大会日本代表チーム
- ・日本ソフトボール協会賞
東京女子体育大学(東京)
- ・コザスポーツレジャーランド(沖縄)
- ・岡豊高校(高知)
- ・厚木商業高校(神奈川)
- ・鏡中学校(高知)
- ・ユネスコ日本フェアプレー特別賞
シドニー五輪出場日本代表チーム
- ・ユネスコ国際フェアプレー賞広報部門奨励賞
シドニー五輪出場日本代表チーム
- ・JOCスポーツ賞特別功労賞
シドニー五輪出場日本代表チーム



1998年、2000年、2001年、2005年と4回にわたって日本ソフトボール協会賞に輝いた厚木商業高校

【2002年(平成14年)度表彰】

- ・ミズノメントール賞
宇津木妙子
- ・文部科学省国際競技大会優秀者表彰
第10回世界女子選手権大会日本代表チーム・監督
- ・第14回アジア競技大会日本女子代表チーム・監督
- ・第52回読売新聞社「日本スポーツ賞」
第14回アジア競技大会日本女子代表チーム
- ・日本ソフトボール協会賞
日本体育大学男子(東京)
- ・東京女子体育大学(東京)
- ・コザスポーツレジャーランド(沖縄)
- ・オール高知(高知)
- ・岡豊高校(高知)
- ・I'Z(愛知)



2001年、2002年、2004年と3回にわたり日本ソフトボール協会賞を受賞した岡豊高校

【2003年(平成15年)度表彰】

- ・文部科学省国際競技大会優秀者表彰
第7回世界女子ジュニア選手権大会日本代表チーム・監督・コーチ
- ・第53回読売新聞社「日本スポーツ賞」
第7回世界女子ジュニア選手権大会日本代表チーム
- ・日本ソフトボール協会賞
日本体育大学男子(東京)
- ・大阪グローバル(大阪)
- ・日立&ルネサス高崎(群馬)

【2004年(平成16年)度表彰】

- ・第54回読売新聞社「日本スポーツ賞」
アテネ五輪出場女子日本代表チーム
- ・日本ソフトボール協会賞
鳴門クラブ(徳島)
- ・岡豊高校(高知)
- ・木更津総合高校(千葉)



2002年～2006年まで壮年大会で「5連覇」を飾るなど、「常勝」を誇った鳴門クラブ

【2005年(平成17年)度表彰】

- ・第55回読売新聞社「日本スポーツ賞」
第7回世界男子ジュニア選手権大会日本代表チーム
- ・日本ソフトボール協会表彰
鳴門クラブ(徳島)
- ・静岡クラブOB(静岡)

大阪グローバル(大阪)
高知パシフィックウェーブ(高知)
日立&ルネサス高崎(群馬)
厚木商業高校(神奈川)
新島学園高校(群馬)
東京都協会
山梨県協会
滋賀県協会

【2006年(平成18年)度表彰】

- ・文部科学省国際競技大会優秀者表彰
第11回世界女子選手権大会日本代表チーム
第15回アジア競技大会女子日本代表チーム
- ・第56回読売新聞社「日本スポーツ賞」
女子日本代表チーム
- ・テレビ朝日「ビッグスポーツ特別賞」
女子日本代表チーム
- ・日本ソフトボール協会表彰
鳴門クラブ(徳島)
大阪ツツキグローバル(大阪)
日立&ルネサス高崎(群馬)



「スーパースター」
上野由岐子投手が
所属チームでも
日本代表でも大活躍



大阪ツツキグローバル
のエースとして大活躍
した照井賢吾投手

【2007年(平成19年)度表彰】

- ・第57回読売新聞社「日本スポーツ賞」
第8回世界女子ジュニア選手権大会日本代表チーム
- ・日本ソフトボール協会表彰
大阪ツツキグローバル(大阪)
ルネサス高崎(群馬)
新見高校(岡山)

【2008年(平成20年)度表彰】

- ・第58回読売新聞社「日本スポーツ賞」オリンピック特別賞
北京五輪日本代表チーム
- ・朝日新聞社「朝日スポーツ賞」
北京五輪日本代表チーム
- ・毎日新聞社「毎日スポーツ人賞」グランプリ
北京五輪日本代表チーム
- ・テレビ朝日「ビッグスポーツ賞」
北京五輪日本代表チーム
- ・デイリースポーツ社「ホワイトヘア・スポーツ賞」
北京五輪日本代表チーム
- ・日本ソフトボール協会表彰
大阪ツツキグローバル(大阪)
ルネサス高崎(群馬)
九州産業大学付属九州高校(福岡)
木原建設(福井)
神村学園中等部(鹿児島)



2006年～2008年、一般男子で3連覇を達成した木原建設

【2009年(平成21年度)表彰】

- ・第59回読売新聞社「日本スポーツ賞」競技団体別優秀賞
女子U16日本代表チーム
- ・日本ソフトボール協会表彰
大阪ツツキグローバル(大阪)
大阪桃次郎(大阪)
ルネサステクノロジ高崎事業所(群馬)
平林金属ソフトボールクラブ(岡山)
神村学園中等部(鹿児島)



2006年～2009年、全国中学校大会で4連覇を飾った神村学園中等部

【2010年(平成22年)度表彰】

- ・文部科学省国際競技大会優秀者表彰
第16回アジア競技大会女子日本代表チーム
- ・第60回読売新聞社「日本スポーツ賞」
第12回世界女子選手権大会日本代表チーム
第16回アジア競技大会女子日本代表チーム
- ・毎日新聞社「毎日スポーツ人賞」
第12回世界女子選手権大会日本代表チーム
- ・日本ソフトボール協会表彰
トヨタ自動車女子(愛知)
平林金属女子(岡山)
金沢教員(石川)



近年、目覚ましい活躍を見せる平林金属。その投打の大黒柱・松田光選手

【2011年(平成23年)度表彰】

- ・第61回読売新聞社「日本スポーツ賞」
第10回アジア女子選手権大会日本代表チーム
- ・日本ソフトボール協会表彰
戸田中央総合病院(埼玉)
平林金属クラブ(男女)(岡山)
金沢教員(石川)
大村工業高校(長崎)



全国高校選抜男子で4連覇を達成するなど、「圧倒的な強さ」を誇った大村工業高校

【2012年(平成24年)度表彰】

- ・第62回読売新聞社「日本スポーツ賞」競技団体別優秀賞
第13回世界女子選手権大会日本代表チーム
- ・日本ソフトボール協会表彰
金沢教員ソフトボールクラブ(石川)
平林金属男子ソフトボールクラブ(岡山)

【2013年(平成25年)度表彰】

- ・日本功労者顕彰(文部科学省)
第13回世界女子選手権大会日本代表チーム
- ・第63回読売新聞社「日本スポーツ賞」競技団体別最優秀賞
第10回世界女子ジュニア選手権大会U19日本代表チーム
- ・朝日ビッグスポーツ賞(テレビ朝日)ビッグスポーツ特別賞
USAワールドカップ優勝女子日本代表チーム
- ・日本ソフトボール協会表彰
金沢教員ソフトボールクラブ(石川)
大阪桃次郎(大阪)
伊予銀行(愛媛)
大村工業高校(長崎)
高崎市役所(群馬)

【2014年(平成26年)度表彰】

- ・国際大会優秀者等表彰(文部科学省)
第10回世界女子ジュニア選手権大会U19日本代表チーム
- ・第64回読売新聞社「日本スポーツ賞」競技団体別優秀賞
第14回世界女子選手権大会日本代表チーム
第17回アジア競技大会女子日本代表チーム
- ・ビッグスポーツ賞(テレビ朝日)特別賞
第14回世界女子選手権大会日本代表チーム
第17回アジア競技大会女子日本代表チーム
- ・日本ソフトボール協会表彰
金沢教員ソフトボールクラブ(石川)
デンソー男子(愛知)
トヨタ自動車女子(愛知)
大垣ミナモソフトボールクラブ(岐阜)
早稲田大学男子(東京)
大村工業高校(長崎)
清水九十九クラブゴールド(静岡)
湘南なでしこ(神奈川)



教員選手権8連覇と「無敵」を誇った
金沢教員ソフトボールクラブ

【2015年(平成27年)度表彰】

- ・第65回読売新聞社「日本スポーツ賞」競技団体別最優秀賞
第11回世界女子ジュニア選手権大会日本代表チーム
- ・日本ソフトボール協会表彰
大垣ミナモソフトボールクラブ(岐阜)
佐世保西高校(長崎)

【2016年(平成28年)度表彰】

- ・第66回読売新聞社「日本スポーツ賞」競技団体別最優秀賞
第11回世界男子ジュニア選手権大会日本代表チーム
- ・日本ソフトボール協会表彰
大垣ミナモソフトボールクラブ(岐阜)
平林金属男子ソフトボールクラブ(岡山)

【2017年(平成29年)度表彰】

- ・第67回読売新聞社「日本スポーツ賞」競技団体別最優秀賞
第12回世界女子ジュニア選手権大会日本代表チーム
- ・日本ソフトボール協会表彰
大垣ミナモソフトボールクラブ(岐阜)
平林金属男子ソフトボールクラブ(岡山)
創志学園高校(岡山)



クラブ女子選手権で5連覇を達成。クラブ
チームとしては「初」の1部リーグ昇格を
果たすなど、新たな「歴史」を作った大垣
ミナモソフトボールクラブ

日本ソフトボール協会賞

第3条 日本ソフトボール協会賞は、次の各号に該当するものを表彰する。
(1) 当法人の役員で永年協会の運営に精励し、ソフトボールの発展に関する業務において著しい功績を挙げたもの。
(2) 協会関係者以外でソフトボールの振興に尽力し著しい功績を挙げたもの。
(3) 協会加盟チームで国際的試合に特に優秀な成績を挙げたもの及び同年度内に本協会主催の全国的大会に2つ以上優勝したもの、又は大会に3年以上連続優勝し、いずれも試合態度など他の模範とするにたるもの。引き続き4年以上連続して優勝したときはその都度継続して表彰する。
(4) その他特に功績が顕著であって、理事会で推挙されたもの。なお、日本スポーツ賞(読売新聞社主催)など他団体の実施する表彰への推薦は、上記から最も優秀なものを表彰選考委員会の選考を経て理事会で推挙する。

HALL OF FAME

HALL OF FAME(国際殿堂)とは、ソフトボール界で国際的に顕著な活躍をした選手、役員、あるいはソフトボールの普及・振興に寄与した人物に対し、その功績を称えるもので、国際殿堂は以下の5部門に分かれている。

1. 選手経験者
2. 審判員経験者
3. コーチ・監督経験者
4. 組織役員
5. 勲功(スポンサー関係)



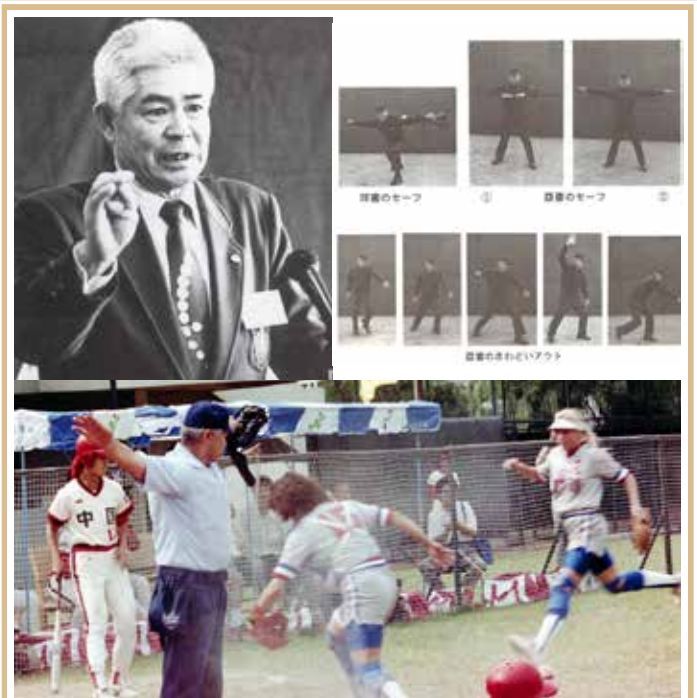
宍倉 博

HIROSHI SHISHIKURA

1993年 国際殿堂入り

1993年、日本人として初めて国際殿堂入りを果たしたのがこの宍倉博氏である。

1965年、アジアソフトボール連盟設立に力を尽くし、初代アジア地区審判長としてアジアにおける審判技術の向上に貢献。その後は日本協会役員として数多くの国際大会・国際会議に出席。それらの功績が高く評価され、日本人としては「初」の国際殿堂入りが認められた。



加藤 宗司

SOJI KATO

2003年 国際殿堂入り

2003年、宍倉博氏の殿堂入りから10年を経て、加藤宗司氏が国際殿堂入りを果たした。

加藤宗司は長く日本協会の審判長を務め、「審判の神様」を呼ばれた名審判。その基本動作の写真が「競技者必携」に掲載され、日本中の審判の「お手本」となった。国内はもとより、数多くの国際大会に派遣され、その審判技術が高く評価され、宍倉博氏に続き、日本人として二人目の国際殿堂入りとなった。



宇津木 妙子

TAEKO UTSUGI

2005 年 国際殿堂入り

2000年シドニーオリンピックで予選リーグから決勝進出まで「全勝」。決勝で敗れはしたが、「限りなく金メダルに近い銀メダル」と高く評価され、続くアテネオリンピックでも銅メダル獲得。厳しくも愛ある指導には定評があり、「指導者」として「初」の国際殿堂入りを果たした。



三宅 豊

YUTAKA MIYAKE

2005 年 国際殿堂入り

選手として世界選手権出場4回。新島学園高校3年時に高校生で初めて「ウィンドミル投法」を操り、全国制覇。その後の「全国優勝」は29回を数える。そのダイナミックなピッチングフォームは「鳳凰が舞うが如し」と形容され、日本人の「プレーヤー」として「初」の国際殿堂入りを果たす。



黒木 幹男

MIKIO KUROKI

2007 年 国際殿堂入り

日本協会の会長・専務理事を長年にわたって務め、その豪放磊落な性格で「幹あんちゃん」と誰からも愛された。数多くの国際大会に「団長」としてチームに帯同、数々の栄光をもたらした。また、アジアソフトボール連盟の顧問としてアジア地区のソフトボールの普及・発展に尽力。それらの功績が認められ、「組織役員」としては、日本人「初」の国際殿堂入りとなった。



西村 信紀

NOBUNORI NISHIMURA

2009 年 国際殿堂入り

世界選手権出場5回、男子日本代表の「エース」として活躍し、1996年第9回世界男子選手権で第3位、2000年第10回世界男子選手権で準優勝と、男子日本代表の「黄金時代」を築く立役者となった。「プレーヤー」としては三宅豊に続き、日本人二人目の国際殿堂入り。現役引退後は環太平洋大学監督として二度のインカレ制覇に導く等、指導者としてもその手腕を発揮している。

先人の言葉に見る 「あるべき姿」と「めざすべき場所」

日本ソフトボール協会30年史に寄稿した岩野次郎氏(当時・日本ソフトボール協会顧問、協会創設時の副会長、第3代専務理事)はこう記している。

「～CMに相手にされないスポーツは後退したかに思われる時代となっている。宣伝や、商業政策に引きずられることなく、質実剛健、真剣に自然環境の素朴な態度に立ち戻り、協会のリーダーも、全プレーヤーも一心同体となり、スポーツの純真性を優れた技術に競技の発展にと、協会の経営、管理に協力一致邁進する契機こそ協会30周年記念に契り合い、外はソフトボールのオリンピック大会参加、中は国際相互の友好と技術向上に国際試合計画、内に日本国内の組織を統轄する強固な団体に成長し、日本協会一本の統一した指導精神の実現に全役員が協力努力をすることと致して、楽しい国民スポーツソフトボールにしましょう」

あれから40年の月日が流れ、日本ソフトボール協会70周年の節目の年を迎えたが、今まさにこの先人・先達の言葉を噛み締め、「前へ」進まなければならないのではないだろうか。

2024年、パリオリンピックでの実施競技から外れ、2028年ロサンゼルスオリンピックでのオリンピック競技復帰・復活をめざさなければならない状況にあり、そのためにも「国際相互の友好」「技術向上」を図るべく、指導者の派遣やチームの交流、技術指導や普及活動が重要であり、ソフトボールの魅力の世界中に発信・アピールしていくためにも、日本における「国際試合計画」、「国際大会の招致・実施」の必要性は論を待たない。

また、来年に開催の迫った東京オリンピックは、日本協会が「一枚岩」となり、一致団結・一致協力し、「強固な団体に成長」する絶好機であり、「日本協会一本の統一した指導精神の実現に全役員が協力努力をする」のは「ALL JAPAN体制」でこの難局に立ち向かい、必ずや金メダルを獲得し、「ソフトボールここにあり!」の心意気を満天下に示さなければならない、と示唆しているようにも受け取れる。

日本ソフトボール協会70周年を契機に、今一度、協会組織の「あるべき姿」を自問自答し、ソフトボールに関わるすべての人が、その「めざすべき場所」を改めて思い描く必要がある。



公益財団法人 日本ソフトボール協会